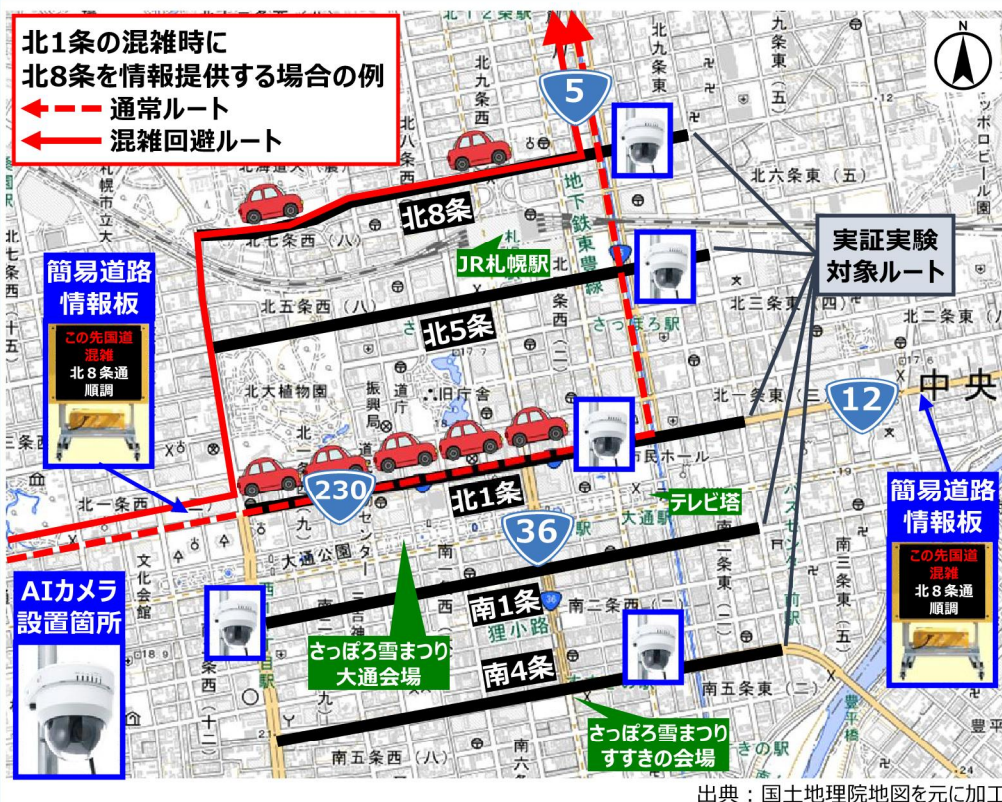


【問合せ先】
 北海道開発局 札幌開発建設部 011-611-0216

札幌中心部のリアルタイム道路混雑情報提供の効果

- 「さっぽろ雪まつり」開催期間中に、札幌中心部の道路混雑状況をリアルタイムに分析し、その結果を特設WEBサイトおよび簡易道路情報板でリアルタイムに情報提供することにより、札幌中心部の交通需要の分散を図る実証実験を行いました。
- 交通需要の分散の結果、北1条通（西11丁目～東3丁目間）の交通量は1時間当たり約125台減少し、旅行速度は約1.0km/h向上しました。
- 道路利用者からも、「カーナビとは別の情報が追加されることによるルート選択の判断材料の増加」、「リアルタイムな混雑情報提供による、経験や勘からの脱却」などの評価を頂いています。

実証実験の概要（実験期間：令和8年1月29日（木）～2月11日（水・祝））



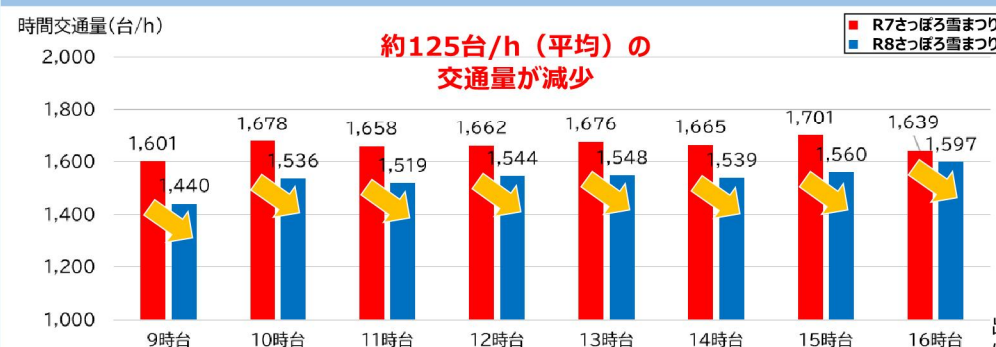
<情報提供（特設WEBサイト）>



<情報提供（簡易道路情報板）>



北1条通の交通量の推移



出典：交通量は札幌開発建設部調べ、R7さっぽろ雪まつりはR7.2.4～2.11、R8さっぽろ雪まつりはR8.2.4～2.11、北1条通（西11丁目～東3丁目間）を対象、道路混雑情報提供は16時頃まで実施

旅行速度の推移

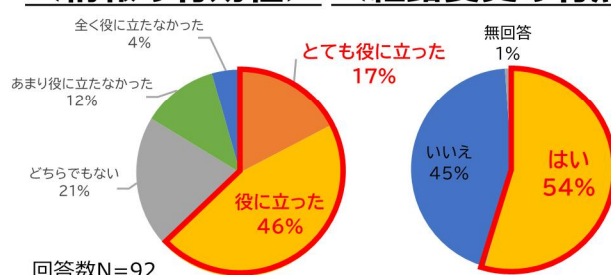


出典：所要時間はETC2.0プローブより算出（R7さっぽろ雪まつりはR7.2.4～2.11の14時台の最低値、R8さっぽろ雪まつりはR8.2.4～2.11の14時台の最低値、実証実験エリア内の国道12号・36号・230号を対象）

道路利用者アンケート

今回の道路情報提供について、約6割の利用者がルート選択に役に立ったと回答しており、また、約5割の利用者が実際に経路変更を選択。

<情報の有効性> <経路変更の有無>



タクシー事業者の声



さっぽろ雪まつり期間中は、天候やイベント状況によって混雑状況が大きく変わるため、事前に渋滞を把握することが難しいです。今回の実験のように、混雑状況がリアルタイムで把握できる仕組みがあれば、「いつも混むから避ける」「今日はたまたま空いているかもしれない」といった経験や勘に頼った判断だけでなく、客観的な情報をもとにしたルート選択が可能になりました。